

アーティスト・イン・児童館  
西尾美也 プロジェクト  
ことばのかたち工房  
制作記録集 2008 — 2009



「ことばのかたち工房」は、古着を使って

〈ことば〉を〈かたち〉にする作業場です。

〈ことば〉は、町の「ある見慣れたかたち」を言い表したものです。

〈ことば〉の正体を知ることなく、まず自由な発想で〈かたち〉をつくります。

〈かたち〉は、最後に「ある見慣れたかたち」と置き換えられます。

「ことばのかたち工房」は、古着を使って町に新たな装いを与えていきます。

現代美術家 西尾美也

01 ことばのかたち工房とは

02 ことばとかたちの正体

04 1. ことばを集める  
06 2. ことばのかたちを考える  
08 3. ことばのかたちをつくる  
10 4. ことばのかたちを届ける  
12 5. 地域で振り返る

14 ことばのかたち工房 作品一覧  
21 ことばのかたち工房 制作マップ

22 西尾美也 インタビュー

24 アーティスト・イン・児童館とは

アーティスト・イン・児童館  
西尾美也プロジェクト  
ことばのかたち工房 2008—2009

開催期間：2008年10月—2010年3月  
会場：練馬区立東大泉児童館

2008年度主催：  
アーティスト・イン・児童館 実行委員会

2009年度主催：  
東京都  
東京文化発信プロジェクト室  
(公益財団法人 東京都歴史文化財団)  
アーティスト・イン・児童館 実行委員会

企画：西尾美也  
運営：白井隆志  
菊地みぎわ  
池上ゆいこ  
高木 文  
山口麻里菜  
(アーティスト・イン・児童館 実行委員会)

協力：  
福澤俊子(練馬区立東大泉児童館 館長)／高橋陽子(練馬区立東大泉児童館 職員)／斉藤信(練馬区立東大泉児童館 職員)／蒲田明義(練馬区立春日町児童館 学童担当)

スペシャルサンクス：  
石田恭介(ポラン書房)／伊藤佳子(竹葉堂)／伊東規江(小島屋豆腐店)／小川浩司(サイクルショップグリーンズ)／蒲田明義(練馬区立春日町児童館)／加藤輝幸(もんじゃ焼き・お好み焼き わらべ)／河上道明(株式会社住まいるステーション)／北垣繁(太平観光株式会社)／柴田千尋・柴田満祐美(トレント洋菓子店)／関口洋子(関口農園)／高橋陽子(練馬区立東大泉児童館)／竹川栄治(東大泉敬老館)／戸頃正浩(ところ青果)／中田晴香(casual flower KANON)／比留間安邦(三又酒店)





ことばとかたちの正体

02 03







ことばを集める

インタビュー

「ことばのかたち工房」には大きく分けて3つの作業があります。町から〈ことば〉を集める「インタビュー」。〈ことばのかたち〉を、古着を使って作り出す「制作」、〈ことばのかたち〉を町に届ける「撮影」の3つです。それぞれの作業には、それを担当する作業員がいます。

「ことばのかたち工房」の作業はまず、インタビューの担当者がこの町で仕事をする人の「仕事着」についてインタビューをすることで始まります。インタビューを承諾してくれた人に、作業着の特徴、お客さんから言われたこと、その服を手に入れた経緯、気に入っているところや秘密のエピソードなどを質問していきます。戸惑いつつも、インタビューをされる人たちは、服について意識しているところや、服にまつわる面白可笑しい話をしてくれます。

こうして聞き出した様々な物語から、インタビュー担当は、その服を言い表すいくつかの〈ことば〉を導き出していきます。

白井くん 菊地さん

遅くなって申し訳ないです。  
ことばを選びましたので、お送りします。  
よろしくお願いします。

- ・甘い汚れ
- ・同じような柄
- ・耐久性のある消耗品
- ・上は薄く下は分厚い
- ・好みのみどり
- ・2、3日の変化
- ・ギャップ
- ・名前の色
- ・保護

西尾美也 | Yoshinari NISHIO

(2009年7月11日 西尾美也氏からのメールより)



1. ことばを集める





## ことばのかたちを考える

### ミーティング

東大泉児童館の音楽室では、材料となる古着とアイデアやスケッチを描くための模造紙を広げて、〈ことばのかたち〉をつくる準備をします。

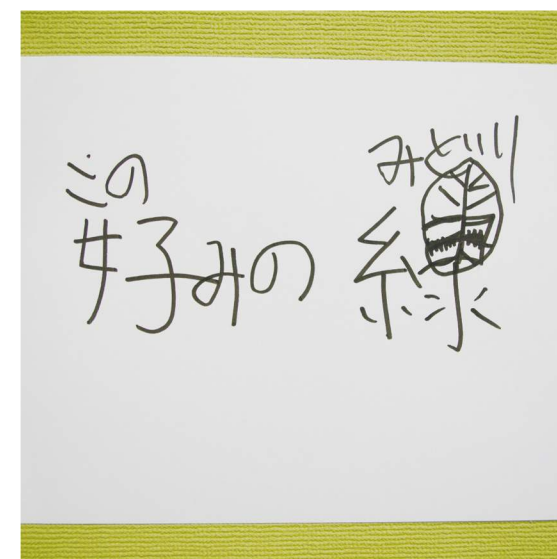
インタビュー担当から届けられた〈ことば〉。突然〈好みのみどり〉と言われても、なんの事だかさっぱりわからない。そんな空っぽの〈ことば〉から勝手にイメージをふくらませるミーティングを始めます。

集まったのは、学生や近隣の住人など制作スタッフと、児童館に遊びに来た子どもたち。ひとつの〈ことば〉の意味をじっくり考えたり、思い浮かんだイメージをさまざまスケッチに描きおこしたりすることもあれば、「〈とても薄い〉ってどんなかたちかなあ?」と聞いて「知らない!」と切り返されたり、スケッチを描いていたら「俺に書かせろ!」とペンを奪われたり、様々なトラブルも巻き起こります。

そんな中で、落書きスケッチや子どもたちの悪ふざけの中にも〈ことば〉との結びつきを見つけながら、「こじつけ」や「誤解」も多分に含みつつ、〈ことばのかたち〉の「設計図」を描いていきます。

「ひっぱられすぎたしっぽってなんなの?」  
と、ばかじゃないの?と言わんばかりに言うと、もう一人が  
「これで作ればいいんじゃないの?」  
と白いレースをひっぱり出してきました。  
すると彼女たちは、細く裂いた布や、服についているあらゆる紐を、白いレースにどどん結びつけて、ぐいぐいとひっぱって、「かたち」をつくり始めたのです。

ブログ「ことばのかたち工房 10月3日」(2008/10/3)より  
<http://jidokan.net/blog/2008/1003-59/>



## 2. ことばのかたちを考える



## ことばのかたちをつくる

## 制作

「設計図」が出来上がったら、イメージに合う色や形の古着を選び出し、切ったり貼ったり、歯切れを詰め込んだり、結んだりしながら、「かたち」を作り上げていきます。

〈開放感〉は、乱雑に描かれた「爆発」のイメージを作り上げるために、一輪ごとに、「次の色どうする？」と意見を求めながら、輪を重ねて作られました。

こうした制作作業の傍らでは、材料となる古着の解体作業が行われます。一枚の服を「袖」「襟」「ポケット」「ファスナー」などへと分解し、使いやすい材料を作っていきます。

そんな作業はそっちのけで、服を散らかしたり、手当たり次第身につけたり、服で綱引きをしたりして遊ぶ姿もあります。綱引きをしていたら布が意外な変形をして、そのまま〈思わぬ発見〉という〈ことばのかたち〉に仕立て上げたこともありました。

「制作」「解体」「素材遊び」が同時に起こるこの作業場では、ピアノを弾いたりシール交換をしたり、カードゲームをしたりする子どもたちもいます。日常の遊び場と、制作のための作業場が重なり合う中で〈ことばのかたち〉は生まれてゆきます。

12月のことばのかたち工房が開催されました。この日も朝からケータイを奪われたり、ひざ下タックルをくったり、模造紙を引き千切られたり、台風のようだったことは言うまでもないです。

ブログ「12月12日(土) 年末! ことばのかたち工房」  
(2009/12/23) より  
<http://jidokan.net/blog/2009/1223-515/>



## 3. ことばのかたちをつくる





## ことばのかたちを届ける

### 撮影

様々な面白可笑しい事件と共に、児童館で生まれた〈ことばのかたち〉は、インタビューをした〈ことば〉の持ち主のところへと届けられます。そこで、元の〈かたち〉と〈ことばのかたち〉を見比べるために、普段の仕事着の姿と、〈ことばのかたち〉を身につけた姿の写真を撮影します。大小様々な〈ことばのかたち〉を、普段の仕事着の上に重ねたり、担いでもらったり、巻きつけたりしていくと、別の姿へと変わっていきます。

自分が言った〈ことば〉が全然違う意味・イメージに捉えられて還ってきたことに、驚きを隠せない様子。笑いと戸惑いが入り交じる撮影の様子を、お客さんや通行人も足を止め、不思議そうに見つめます。

普段の仕事着と、〈ことばのかたち〉。簡単なインタビューから始まって、児童館での遊びの中で意味と形が変えられて、持ち主のところへ届けられた〈ことば〉と〈かたち〉の旅路を想いながら、この2枚の写真を見比べてみます。

一体、今回アーティストは誰なのか？

招待されたアーティストは常にそこにいるわけではない。子供たちがアーティストなのか？一緒にいる学生たちがアーティストなのか？作品自体がアーティストなのか？それを着る街、商店街の人たちがアーティストなのか？

「練馬区大泉学園・もんじゃ屋「わらべ」のつぶやき」(2009/4/30)より  
<http://blogs.yahoo.co.jp/warabe401/>



## 4. ことばのかたちを届ける



## 地域でふりかえる

## 展示

こうして「ことばのかたち工房」という遊びは、子ども、店主、福祉施設の職員、近隣に住む人など、多様な人びとを巻き込みながら展開されていきました。この活動を通じて生まれた様々なモノ・コトは、それぞれの商店の店先や古書店「ボラン書房」で展示されました。始めのインタビューの内容、つくられた〈ことばのかたち〉、それを身につけた店主たちの姿、制作作業をする作業員と子どもたちの写真が並ぶ空間ができあがります。

ここで、作業員と子どもたちは元の〈ことば〉の正体とそれが届けられた先を知ることになり、店主や職員たちは、自分の〈ことば〉が〈ことばのかたち〉に変換されて行く過程を知ることになります。個々の体験の前後の物語と出会い、多様な人びととこれまでとは別の関係を作り出していたことを発見していきます。

古書店「ボラン書房」には、多くの人に読まれ、ふれられてきた〈ことば〉と〈イメージ〉が堆積しています。その中にディスプレイされた「ことばのかたち工房」は、それを見る人びとの中に〈ことば〉、〈かたち〉、町、人の新しいイメージをつくりあげていきます。

身近な人、身近な街に芸術。  
とても不思議で、不思議にマッチする。  
そんなかわりに参加出来た喜びと、  
お手伝いできればとてもうれしいです。  
次はどうぞ当店で展示してください。  
三又酒店 比留間

(ことばのかたち工房展 芳名帳より 原文ママ)



## 5. 地域でふりかえる



# No.01 小島屋豆腐店



気に入ってるところはありますか？  
水いくらかけても、大丈夫。  
水に強い。  
なんか楽しそうです。  
楽しくはないわよー。  
夏は蒸れるし。空気孔がほしいぐらい。  
重いし、あとは火に弱い。



**水には強い**  
強そうな  
ギザギザとげのウニ

**空気孔**  
落ち葉の気孔

**火には弱い**  
燃えやすそうな家

**蒸れる**  
汗をかくくらい  
熱くなったズボンの中

**重い**  
グラデーションの  
足かせ

撮影日=2008/12/19  
モデル協力=伊藤規江さん



14 15

# No.03 casual flower KANON



エプロンをご自分で選ばれたんですか？  
そうですね。  
汚れちゃうの嫌なんで、黒とかベージュとか茶色とか、  
汚れが目立たない色を着ます。  
何か気に入ってる部分はありますか？  
ポケットいっぱいあるのは便利ですね。  
お花屋さんには昔からなりたかったんですか？  
たまたま小学校のアルバムをみたら、  
夢は「お花屋さん」って書いてありました。  
ずっとなりたかったわけじゃないですが。



**目立たない汚れ**  
靴の汚れは目立たない

**過去の夢**  
みんながなりたかった  
未来につながる夢

**便利**  
便利で快適！  
インターネット

撮影日=2009/1/5  
モデル協力=中田春香さん



# No.02 もんじゃ焼き・お好み焼き わらべ



どうしてドラえもんを？  
ドラえもんは世界の人に知られてるし、自分の住んでる町を誇りに思って自慢してもらいたっていうことがきっかけ。国際理解じゃないけれど、海外の人との共感って大事でしょ？  
でも大泉の人と石神井の人は、ドラえもんの舞台をめぐるいつもケンカしてたんす。  
いつ頃から着てるんですか？  
もう8年くらい着てるんだけど、真っ黒なんだよね。  
ドラえもんを通して何か起こりましたか？  
よくしっぽひばられるね。みんな引く張るから、何度もつけなおしてるんだけど。  
子どもたちに何かあげるときもポケットからあげたりするのね。夢と希望を振りまくために。



**町の誇り**  
町の人たちを誇る飾りつけ

**けんかの原因**  
入り組んだ腕、殴り合い

**ひばられすぎたしっぽ**  
くいくいと結ばれてひばられすぎた、しっぽ

**国際理解**  
多様な色の人びとが手を結び、取り合う姿

**8年間の汚れ**  
1年ごとに変わっていく汚れの色。9年後はどんな色？

**夢と希望のポケット**  
こんなポケットあったらいいな。小2女子の夢と希望

撮影日=2008/12/19  
モデル協力=加藤輝幸さん



# No.04 関口農園



その洋服の気に入ってるところはありますか？  
生地が強い。ほかには、安い。  
長靴は普通に歩く分にはいいんだけど、農家ってしゃがんだり立ったりするから耐久年月が必要な。  
ただ中に毛が入ってないから冷たいんだよね。これ使ってる人は、肉屋さんとか魚屋さんとか室内用なんだ。  
奥さんのフードはどこで買われたのですか？  
これはねえ、農家が使う業者さんの試供品なのよ。  
冬は、服で不便なところってありますか？  
動作が鈍くなるんですよ。だからユニクロのフリースとか子どものおさがりで着ちゃうけど。



**強い**  
筋肉隆々レスラーの腕

**耐久性**  
しぶとい母の強さ

**試供品**  
いろんなポケットを試せるウォールポケット

**安い**  
優しい声を包み込む

**室内用**  
屋外では使わない、モップ

**動作の拘束**  
歯車に鎖をはめる

**子どものおさがり**  
あかちゃんのよだれかけ

撮影日=2009/1/12  
モデル協力=関口洋子さん

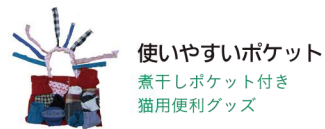




# No.05 ところ青果



いま着てらっしゃるのはユニフォームですか？  
作業着屋でエプロン買ってきただけだね。  
エプロン以外のものはご自分で用意なさってるということですか？  
そうだね。私服は動きやすい服を選んで。  
気に入っているところはどなたところですか？  
使いやすいところかな。ポケットがついてる。  
あとは『いらっしゃいませ』の刺繍もかな。



## 身軽

ぶかぶか浮かぶ気球と  
それをひっぱる布飛行機

## 使いやすいポケット

煮干しポケット付き  
猫用便利グッズ

## いらっしゃいませ

扉を開けると聞こえてくる、  
「いらっしゃいませ」の声

撮影日=2009/1/12  
モデル協力=戸頃正浩さん



16 17

# No.07 三又酒店



仕事着についてお話を聞かせてください。  
これは、たまたま酒蔵さんにいただいたもので。  
でも大体私はこういう長いエプロンをつけてます。  
酒屋って前掛けが多いですが、私はエプロンタイプの方が自分の体にしっくりくるので。  
これは、どちらかというとワインをご紹介するときに着ます。  
ソムリエ風というタイプのエプロンなんですけど。  
他にも日本酒の時はこれ、っていうのを用意なさるんですか？  
そうですね、イメージは大事にしています。  
あと、酒屋でネクタイというのは少ないと思いますが、お客様にいいものをお勧めしたいという心の現われから、ネクタイを縮めて、気持ちをしめてやっています。

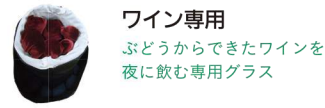


## もらいもの

みんなからもらった、  
いいことりのジャケット

## 体にしっくりくる長さ

結んで長さを調節する  
なわとびは天女の羽衣



## ワイン専用

ぶどうからできたワインを  
夜に飲む専用グラス

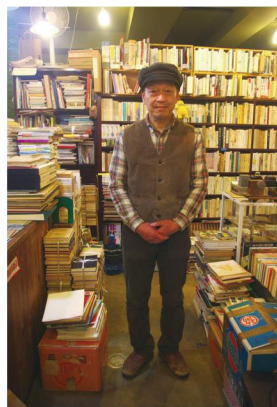
## 気持ちをしめる

気持ちをしめて  
「心を鬼にする」、鬼のお面

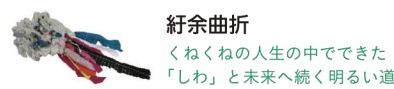
撮影日=2009/1/30  
モデル協力=比留間安邦さん



# No.06 ポラン書房

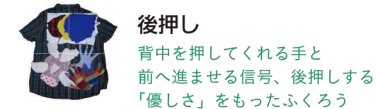


仕事着についてお話を聞かせてください。  
紆余曲折あったんです。  
和光市ではじめて20年経った頃、店舗をやめてネット販売の事務所になろうと思ったときに、大泉学園でやれと背中を押してくれる人がいました。  
お客さんの紹介だったので、がんばろうと思った。  
店だけでなく、私自身も変わらない！と思いました。  
自分への掟としてネクタイもしていました。  
デパートの売り場に参加するときには高級感も意識しました。  
このごろは普段着に近づいてるけど、帽子だけはかぶっています。



## 紆余曲折

くねくねの人生の中でできた  
「しわ」と未来へ続く明るい道



## 後押し

背中を押してくれる手と  
前へ進ませる信号、後押しする  
「優しさ」をもったふくろう



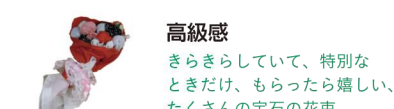
## おきて

まもらなきゃいけない厳しい、  
厳重なおきての箱



## デパート向き

デパートに流れ込む、  
一人ひとりの  
人間のかたまりの向き



## 高級感

きらきらしていて、特別な  
ときだけ、もったら嬉しい、  
たくさんの宝石の花束

撮影日=2009/1/30  
モデル協力=石田恭介さん



# No.08 太平観光株式会社



仕事着についてお話を聞かせてください。  
タンスの上から順番にあつたから着てるだけ。  
ネクタイは二週間くらいいっしょですね。  
仕事にはこれでいきますね。  
バッジはうちのマーク。  
服について何か言われたことはありますか？  
スーツから塩がふいていると言われたことはあります。  
夏に汗かいて塩ふいてたりするんでしょうね。



## タンスの順番

作業過程も、  
タンスの大きさも、  
「1・2・3」と順番に



## 仲間の印

宝石が仲間の共通の印  
自由に身につけられるグッズ



## 塩

たくさんの穴からふき出る汗は  
小さな塩に、そして海になる

撮影日=2009/1/30  
モデル協力=北垣繁さん





# 練馬区立東大泉児童館

No.09

撮影日=2009/1/5  
モデル協力=高橋陽子さん



ピンクとかオレンジ系が多いですね。大人は目立った方が、子どもがみつけやすいかなって。雰囲気的にも明るい方がね。色は気分を反映するので。仕事着に対して子どもたちから何か言われたことはありますか？  
子どもの知ってるメーカーとかかな。今は上履きで偽クロックスを履いてるんだけど、子どもたちも持っていたりするから。あとは、汚れてるよーとか穴あいてるよーとか言われたり。工作やってて、自分が知らないところに絵の具がついてるところを教えてくださいとか。

- 見つけやすい大人**  
大人のような大きな黒のかたまりの中心に紅一点、周りと違うと見つけやすい
- 知ってるメーカー**  
落ち葉の互いどこに入るか「知ってる」ボタンとボタンホールの工場のライン
- 自分に見えない汚れ**  
清潔なシャツの中に潜むのは、自分では見えない襟の後ろの汚れ

- 明るい気分**  
足がたくさんあったら楽しい！楽しいときは明るい気分！
- ニセモノ**  
ホンモノの女の子の服にそっくりなニセモノの服



# 練馬区立東大泉敬老館

No.10

撮影日=2009/1/5  
モデル協力=竹川栄治さん



仕事着についてお話を聞かせてください。基本的にはこの青いストライプです。仕事着に対して利用者の方から何か言われたことはありますか？  
結構清潔なイメージとか。仕事着にまつわるエピソードがあればお教えてください。お風呂業務の掃除があって、夏はとも汗をかいて、1日でびしょぬれになってしまいます。半そでなので、逆に冬は上着を羽織らない寒い。上に着るのは自由ですね。今は、ロッカーに眠ってるんですけど。ここは4月からなので、これから初めての冬を迎えます。上着を選ぶ時の基準はありますか？  
あたりさわりのない色で決めています。

- 青いストライプ**  
青とそれ以外の色を交互に並べて重ねて、しましまのストライプに
- びしょぬれ**  
小さな水滴のついた、びしょぬれの水たまり
- 初めての冬**  
初めてだから上手にできなかった雪だるまと赤ちゃんのマフラー

- 清潔**  
折り紙のように折ってできた、花もよう付きの布の結晶
- 夏に眠る**  
夏は眠っているものは冬に活躍する。冬に活躍するのは、みかんとこたつのセット
- あたりさわりのない色**  
あたらさわったりしたくない色は、毒・雷・炎の3つの色



18 19

# 練馬区立東大泉児童館

No.11

撮影日=2009/3/7  
モデル協力=満田明義さん



仕事着についてお話を聞かせてください。Tシャツは元相棒の旅行のお土産。その日は、俺が夫婦で温泉に行く日だったのよ。相棒の彼氏が忙しくてここしか行けないと。その頃のことを思い出す。休みを譲ったお返しとしてのお土産なんですね。Tシャツだと毎日とっかえひっかえできるから。あと基本はジャージ。忘れてGパンでいると、どうしたのって子ども達に言われる。ジャージでいなきゃいけないらしくて。他に何かこだわりはありますか？  
昔靴で子どもの足を踏んで、それ以来、痛くないように柔らかいビーサンを履いている。

- 相棒のお土産**  
制作スタッフ3人が互いにお土産を作り合ってたんだ
- 交換しやすい**  
子どもたちが普段交換し合うものをひとつにまとめて、交換しやすくしたかたち
- 子どもにやさしい**  
柔らかいアルパカと甘いフルーツは子どもにやさしい

- 隠れた思い出**  
頭の片隅に隠れたいつかの思い出をあわせかたち
- 暗黙の了解**  
布の下の見えないうちで共有し合う「糸電話」



# 竹紫堂

No.12

撮影日=2009/4/6  
モデル協力=伊藤佳子さん



今着ていらっしゃるのはユニフォームですか？  
ええ。  
男性用はちょっと違うんだけど。服について何か言われたことはありますか？  
特に言われないうねー。  
お菓子屋さんではこういうもんだと見ていらっしゃると思います。  
気に入ってる／気に入ってないところはありますか？  
へんなところにポケットがついてて邪魔だとか。汚れることは多いですか？  
テーブルのところがよく汚れる。水仕事もあるし袖はゴムじゃないとすぐ濡れちゃう、汚れちゃう。

- 女性用**  
おなかに赤ちゃんのいるお母さんの妊婦服
- 邪魔なポケット**  
たくさんあって、もう物が入っていて、派手派手で、邪魔なポケット
- 侵入の防止**  
虫の侵入を防止する、すきまのない帽子

- 一体化**  
いろんな水玉模様の小さな生きものが集まった一匹の大きな不思議な模様の動物
- テーブルの位置の汚れ**  
きまった位置にいつもあるテーブルの足のほこりやゴミの汚れ





# トレント洋菓子店

No.13



こだわっているところはありますか？  
 チョコレートとかクリームがついてすぐ汚れるから、清潔感のあるものにはこだわってるよ。表のキレイなところばかりじゃなくて、裏方の作業も見てもらえればいいな。  
 エプロンやバンダナはお店の指定のものですか？  
 いいえ、好みで選んでいるわ。  
 バンダナもスタッフの子と同じような柄で合わせてるけど。  
 汚れたときはどうしていますか？  
 あんまり汚れたものは処分してる。これも消耗品だからね、なるべく耐久性のあるものを選んでるけどね。

撮影日=2010/4/8  
 モデル協力=柴田満祐美さん(左)・柴田千尋さん(右)



- 甘い汚れ**  
チョコレートの上に、キャンディーの雫
- ギャップ**  
「球」と「線」、「地味」と「派手」。色と形のギャップ
- 好みのみどり**  
緑色の森の熊さんが好きなのはシャケ
- 同じような柄**  
たくさんの星が並ぶ「天の川」
- 耐久性のある消耗品**  
でっかい文房具は、使い切るのに時間がかかる

20 21

# 株式会社 住まいるステーション

No.15



仕事着についてお話を聞かせてください。  
 「クールビズ」が流行ってからもうネクタイしなくなってるね。一度とったら気持ちが良いくて、それ以来つけなくなったのよ。  
 お客さんから何か言われたことはありますか？  
 最近「若返ったね」って言われるのよ！  
 クールビズも関係あるのかな？  
 こだわっているところは？  
 高価なものじゃなくて、自分で見ていいと思ったものを着てます。  
 そうそう、最近発見もあって、この間ファミレスでニッセンのカタログを見つけて、「え！？こんなに安いの！？」ってカルチャーショックで。思わず買ってしまいました。

撮影日=2010/4/8  
 モデル協力=河上道明さん



- 開放感**  
フードを開けたら弾ける花火
- 若返り**  
少し入れば若返り、入りすぎると猿人にまで戻ってしまう若返りマシン
- 思わぬ発見**  
服で綱引したら、綱になった！
- カルチャーショック**  
児童館には子どもがいっぱい、古着がいっぱい！  
怪獣にびっくり！

# サイクルショップ グリーング

No.14



気に入っているところはありますか？  
 特にないけど、お店の名前に合わせて選びました。  
 こだわりは？  
 夏場は暑いから上は薄い生地の物を選んでいるけど、膝をつく仕事なのでズボン分厚い生地のものを選んでます。  
 軍手は常備しているんですか？  
 やっぱりケガから守るために使っていますね。これはさっき新しくしたばかりなんですよ。2、3日で一つダメになるくらいですね。

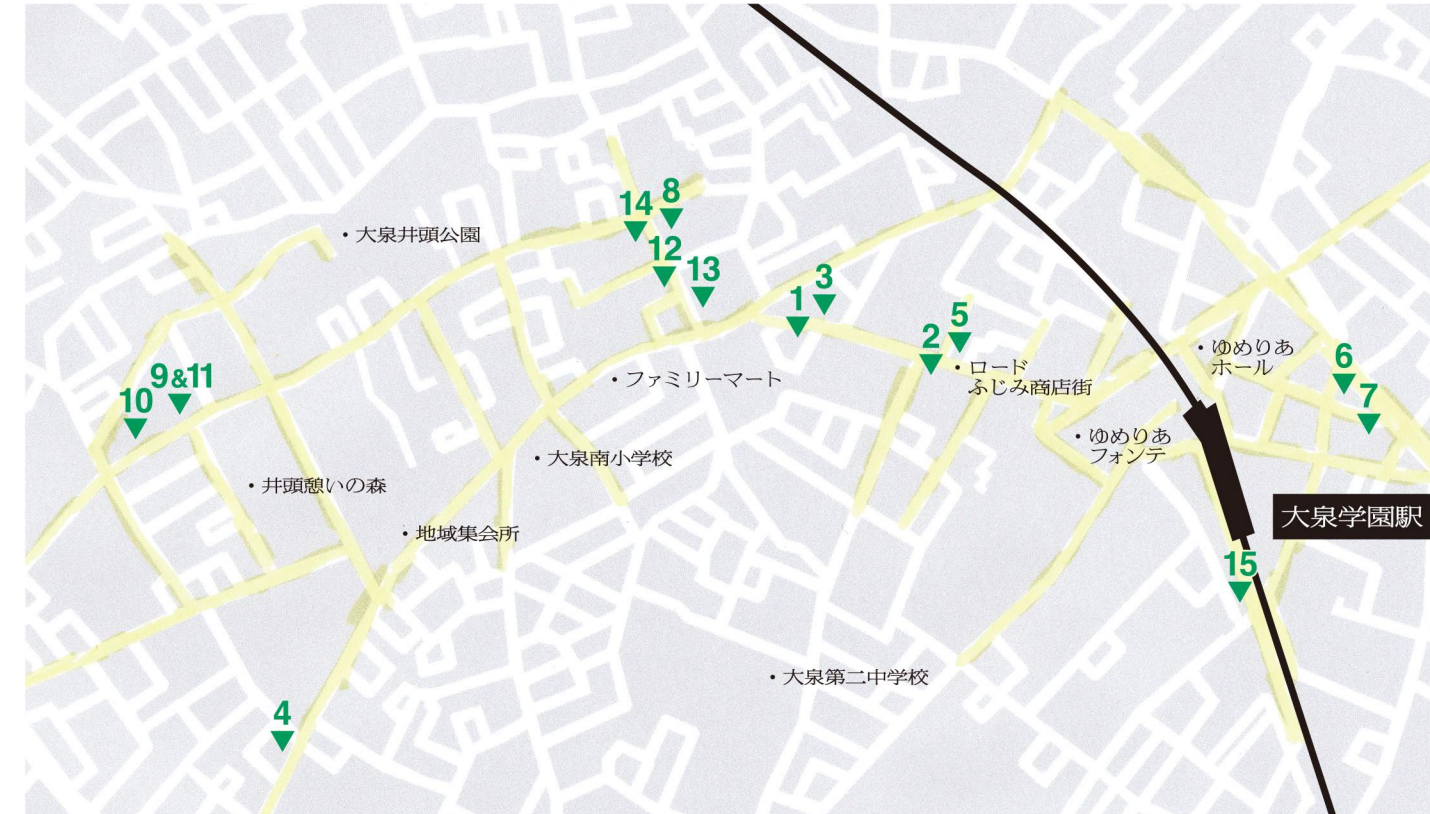
撮影日=2010/4/8  
 モデル協力=小川浩司さん



- 名前の色**  
名前も色も、付く前の赤ちゃん
- 上は薄く下は分厚い**  
冷徹な悪魔と地獄の温泉
- 保護**  
皆を保護するスーパーマンを保護するスーツ
- 2、3日の変化**  
芽が出て二日目、三日目

# ことばのかたち工房 制作マップ

Making Map







#### Overall

世界各地の巨大な喪失物を、市民が協働して古着のパッチワークで再建する試み。これまでに、フランスのサンナゼール市にて「Overall: U-Boat」(2009)、埼玉県北本市にて「Overall: Sailboat」(2009)、東京都台東区にて「Overall: Ueno Great Buddha」(2009)、長野県松本市にて「Overall: Foot Soldiers」(2009)、ケニアのナイロビ市にて「Overall: Steam Locomotive」(2010)が行われている。



#### Self Select

世界のさまざまな都市で見ず知らずの通行人と衣服を交換するプロジェクト。これまでにフランスのバリ市にて「Self Select in Paris」(2007)、ケニアのナイロビ市にて「Self Select in Nairobi」(2009)が行われている。

「アーティスト・イン・児童館」のプロジェクトとして実施された

「ことばのかたち工房」。

2008年から練馬区立東大泉児童館を拠点に始まって、

3年目になる現在も継続して活動を展開しています。

今回はその「ことばのかたち工房」の仕組みを考案した西尾美也さんに、

そのアイデアに隠された想いを聞いてみました。

#### ——「ことばのかたち工房」を発想するまでの経緯を教えてください

「アーティスト・イン・児童館」というプログラムに参加し、東大泉児童館で何かする事になってまず思ったのは、「アーティスト・イン・児童館」というタイトルは、アーティストが児童館に来たら、何か面白いことが起こるんじゃないかという期待を含んでいますよね。まず、そういう自信がないので、場をひっぱったり、盛り上げたり、何か鋭いことを言ったり発見したり、子どもとの化学反応が生まれたり、というようなアーティストへの期待の拒否から考えました。それと、ずっと滞在できるわけではないから、アーティストがいないと成立しないのは何か意味がないように思いました。

すでにいる人で、すでにあるもので、その使い方を変えることで化学反応が起こるようなことを考えて、共有度の高い「装い」と「言葉」に着目しました。「装い」を通したコミュニケーション、「言葉」を通したコミュニケーションが町の中にあるわけですが、その間にアーティストが介入する。そしてコミュニケーションを変形させる。伝言ゲームのような仕組み。その非日常の創出拠点である工房を、子どもの日常である児童館に設けることで日常化していく。すると、町の中のコミュニケーションへ別の回路が開く。それは、ワークショップにありがちな予定調和の排除であり、作家性、作品性の排除です。アーティストが子どもにサービスするのではなく、お互いがいかに面白がれるかという子どもとアーティストの対等な関係を目指しました。

「子どもとはなんなのか」という疑問もありました。どういう価値観で人びとは「子ども」という言葉を作ってきたのか。それはコミュニケーションを便利にするための、とりあえずの分類なんじゃないか。本当は対等な人間のはずじゃないかと。その分類の組み換えを試みたいとも思いました。

そんなふうにして構想した「ことばのかたち工房」では、子どもや商店の人たちなど多様な人びとが関わるけれど、共通しているのは「装い」や「言葉」など日常的に使っているものを見直し、いつもと違う使い方をする体験だと思います。子どもたちやスタッフにとっては、服を着るのではなく「材料」として切って使う体験だし、商店の人たちにしてみれば、自分の服に関して話した言葉が違う意味合いで捉えられて還ってくるという体験。その辺の、スムーズにコミュニケーションできない、それぞれの日常との「ズレ」の部分をどんどん楽しんでいく。

「装い」や「言葉」みたいに普段使うものが、ズレながら有機的にリンクして、そこに関わる人達の日常に影響していくようなシステムを作りたかったんです。

#### ——今後も展開を続けていく

「ことばのかたち工房」はどんなふうになったら面白いと思いますか？

大泉は、かなり面白いと思います。一年目を終えてから、アーティストがいなくても続けたいという声が入

22 23

側から出てきて、実際に二年目の活動を続けている。

イメージとしては、子どもたちがスタッフの立場になって、展開させて面白くしていけばいいなあと思っているけど、その人達がやりたければやればいいなあと思うぐらいですね。

人間の気持ちを変えたりとかするほうが重要なので、ルールや方法論を作ってそこに固執していくことはつまらない。そこで起こった感情で、ぜんぜん違うことを皆がやり始めることの方が面白いと思っています。

大泉の今後の展開は結構楽しみです。どこでも誰でもできるような活動ではないし、それができる人たちがいるのは、大泉の特質だと思っていますね。続けていった先にどうしていくか、というのは皆で作っていくものだと思うので、ぼくは楽しみにしているっていう感じです。

#### ——西尾さんの

「装いの行為におけるコミュニケーション」に着目した制作とはどのようなものなのでしょう？

ぼくが考えている「装いの行為におけるコミュニケーション」とは、人間同士の関係性が生まれる過程のことです。人間が生まれ落ちて、そこから人為的に何かを身につけていく、あるいは髪を切ったり、身体を洗ったり、化粧をしたりすることも含めて、自分の身体を人為的に加工していく過程を表現しています。

それは「言葉」も同じです。ぼくたちは「日本語」というものを覚えてきたけれど、それはぼくたちが作ったわけではなくて、先人たちが作ってきた。それを使ってぼくたちはコミュニケーションしている。それと同じで、その地域の「装い方」というものも先人が作ってきて、そのルールを通してコミュニケーションをとる必要がありますよね。

そんな風に、ある「装い文化」の中にぼくたちは生まれ落ちて、そのルールを学習し、実践しながら生きて

いきます。中でも能動的に自分から言葉を発したり、意味を組み立てたりするのと同じように、服を着てアイデンティティ、自分らしさみたいなものを形成していく過程があります。

でもそれはもっと俯瞰してみたら、その生まれ落ちた文化の粹組みの中でしかコミュニケーションしていない閉鎖的な状況。ひとつのルールに囚われてしまうと、例えばアフリカのケニアに行って、彼らの生活や言語や服装の文化を目の当たりにしたとき、全く自分たちと違う、と思ってしまう。こんな風に「違う」ということが「壁」になってしまう。彼と私は「違う」という「壁」。

ある特定の習慣とか文化とかに固執すると、必ずこんな対立が起きるんじゃないかと思うんです。今の時代って、いろんな地域と無関係ではありえない。交通が発達したから行くことはできるし、通信技術によって見ることもできるし、情報は入ってくる。人間が移動する、ということが当たり前になっている時代だから、別の場所から来た人に対して、あの人はこういう人だ、あの人はここ出身の人だ、というような見方で「壁」をつくってしまう事の方が多いと思うんです。

ぼくは地域のために何かをしているという感覚は全然なくて、たまたまその地域に来たからやっている、というだけです。それは、その地域にぼくが「生まれ落ちた」と比喩的に考えることもできます。でもその文化とか言語をただ吸収してそのとおりに使うのではなく、「壁」を緩やかに乗り越えていくために「言葉」とか「装い」というものの意味を協同的につくりかえていくという生き方をぼくはしていきたいですね。お互いが持っているもの、「服」であり「言葉」を使って、当たり前とされているやり方ではなく、別のルールをつくってそこに乗っかってもらう。そこから見えてくる新しいコミュニケーションを目指したい。

インタビュー実施日：2009年10月14日

Overall: Ueno Great Buddha上野公園特設アトリエにて

聞き手：池上ゆいこ 編集：白井隆志



#### 西尾美也 (にしお・よしなり)

現代美術家・西尾工作所代表

1982年奈良県生まれ。

現在、東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程在籍中。

装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目し、市民や学生との協働によるプロジェクトを国内外で展開している。代表的なプロジェクトに、《Self Select》《Overall》の他に、数十年前の家族写真を同じ場所、装い、メンバーで再現制作する《家族の制服》や、ある集団の習慣や関係性に形を与えていく《(un)Uniform》などがある。また、2009年に西尾工作所ナイロビ支部を設け、アフリカでのオルタナティブなアートプロジェクトに着手している。

主な個展に、AIT [代官山ルーム] (2010)、京都服飾文化研究財団KCIギャラリー (2006) ほか。主なグループ展に、「レゾナンス共鳴」(セントリーミュージアム [天保山]、2010)、「越後妻有アートトリエンナーレ」(新潟県、2009)、「日常の喜び」(水戸芸術館現代美術ギャラリー、2008) ほか。

作品集に『Fashionscape』、著書に『クリエイティブ・アクション！ (共著)』がある。

<http://yoshinarinishio.net>



#### 西尾工作所ナイロビ支部

ナイロビを拠点に、アフリカ地域でさまざまなアートプロジェクトを市民と協働して行う、日本人とケニア人などからなるゆるやかなチーム。日本とアフリカ地域とのオルタナティブな出会いの場を創出している。

## 西尾美也 インタビュー



## アーティスト・イン・児童館

「アーティスト・イン・児童館」は、  
 子どもの遊び場である児童館を、  
 アーティストの創作・表現のための  
 「作業場」として活用するプログラムです。  
 子どもたちはアーティストの  
 創作・表現の中に遊びを見出し、  
 アーティストは子どもたちの遊びの中に  
 創作・表現を見出すかも知れません。  
 そうしてつくられる遊び・創作・表現が  
 一体となった活動を通じて、  
 子どもと大人の新しい関係を生み出していくことが  
 当プログラムの目的です。

当プログラムは「東京アートポイント計画」の一環として実施されています。

## アーティスト・イン・児童館 ヒストリー

2007年10月	練馬区立東大泉児童館でのボランティア活動を始める
2008年 4月	「アーティスト・イン・児童館」プログラムの企画構想を開始
6月	第一回招待作家として西尾美也氏にオファー
7月	慶應義塾大学SFC教育・研究奨励基金に認定される。
9月	西尾美也氏とプロジェクトの企画を開始
10月	「西尾美也作品展」を開催
11月	「ことばのかたち工房」実施開始
2009年 1月	朝日新聞掲載
2月	毎日新聞掲載
4月	「ことばのかたち工房 記録集」発行
5月	「大泉のかたち展」開催
6月	第二回招待作家として北澤潤氏にオファー
7月	「ことばのかたち工房展」開催
8月	講演「地域の声」開催
9月	講演「これからのアートプロジェクト」開催
10月	北澤潤氏による制作プロジェクトの企画を開始
11月	東京都及び東京文化発信プロジェクト室との共催協定を結ぶ
12月	「ことばのかたち工房」を再開
2010年 2月	イベント「CET090718」にて活動紹介
3月	講演「コミュニティとユニフォーム」にて活動紹介
4月	講演「アーティスト・インの条件」にて活動紹介
5月	読売新聞掲載
6月	北澤潤氏の制作プロジェクト「児童館の新住民史」実施開始
7月	平成21年度文化ボランティア支援拠点形成事業
8月	「コミュニティアート夜話」にて活動紹介
9月	シンポジウム「子ども×アートで地域をひらく」企画・実施
10月	読売新聞掲載
11月	北澤潤氏 成果報告展「新住民のくらし展」開催
12月	「ことばのかたち工房展」開催
2011年 1月	「出張!ことばのかたち工房・イン・高松」企画・実施
2月	現在2010年度の活動を企画・準備中

## アーティスト・イン・児童館 実行委員会

2008年に設立された「アーティスト・イン・児童館」プログラムを運営する任意団体です。アーティストの制作プロジェクトの企画運営のほか、トークイベントの企画や美術や福祉に関わる様々な活動のリサーチを展開しています。

**事務局**  
 〒178-0064  
 東京都練馬区  
 南大泉3-14-27  
**Eメール**  
 info@jidokan.net

## 実行委員会 メンバー紹介 【2009年度メンバー】



<b>白井隆志</b> 企画担当(代表)	<b>菊地みぎわ</b> 事務局長	<b>山口麻里菜</b> 会計	<b>池上ゆいこ</b> 事務局員	<b>高木文</b> 事務局員
1987年生まれ 東京都練馬区在住	1986年生まれ 東京都練馬区在住	1987年生まれ 東京都文京区在住	1987年生まれ 東京都練馬区在住	1987年生まれ 東京都板橋区在住

第一回招待作家  
西尾美也 プロジェクト  
ことばのかたち工房

第一回招待作家西尾美也氏の制作プロジェクトとして2008年10月から東大泉児童館を拠点に近隣の住民を巻き込みながら展開するプロジェクト。これまでに約70点の古着を素材としたオブジェと、商店主や施設職員をモデルとした写真作品15点を制作。2010年も継続して活動を展開する。

第二回招待作家  
北澤潤 プロジェクト  
児童館の新住民史

第二回招待作家北澤潤氏の制作プロジェクトとして、2009年11月から2010年3月の5ヶ月間実施された。児童館で巻き起こる出来事の観察手記を書き綴り、フリーペーパーにまとめて毎週配布する活動を展開。最後には約400枚の手記が児童館の壁に貼られ、日曜日に一日児童館を開放する「新住民のくらし展」が開催された。

シンポジウム  
子ども×アートで地域をひらく

2010年2月20日(土)  
 大泉ゆめりあホールにて。  
 「アーティスト・イン・児童館」の活動を中心に、地域での遊び場づくりや現代美術の活動の実践者が「子ども」「地域」「遊び」「アート」をめぐる議論を展開した。

出演者：  
 天野秀昭  
 (NPO法人プレーパークせたがや 理事)  
 長田謙一  
 (首都大学東京 教授)  
 Nadegata Instant Party 中崎透・山城大督  
 (アーティスト・ユニット)  
 西尾美也  
 (アーティスト・イン・児童館 第1回招待作家)  
 安藤耕司  
 (遊び創造集団「たのしーのひ」理事/児童館職員)  
 白井隆志  
 (アーティスト・イン・児童館 ディレクター)  
 司会：  
 森司  
 (東京アートポイント計画 ディレクター)

## 東京アートポイント計画とは

東京アートポイント計画とは、東京ならではの芸術文化の創造・発信と芸術文化を通じた子供たちの育成を目的に、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が実施している「東京文化発信プロジェクト」の一環として、平成21年度より展開している事業です。東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指しています。

アーティスト・イン・児童館  
 西尾美也プロジェクト  
 ことばのかたち工房  
 制作記録集 2008-2009

2010年6月4日 初版第一刷発行

企画：東京都  
 東京文化発信プロジェクト室  
 (公益財団法人 東京都歴史文化財団)  
 アーティスト・イン・児童館 実行委員会

執筆：白井隆志

編集：白井隆志  
 菊地みぎわ  
 菊地 玲

写真：青山貴行  
 高木文

デザイン：濱 祐斗

アドバイザー：西尾美也

発行：東京文化発信プロジェクト室  
 (公益財団法人 東京都歴史文化財団)  
 東京都墨田区両国3-19-5 シュタム両国5階

本書掲載の写真・文書等の無断掲載を禁じます。  
 ©アーティスト・イン・児童館 実行委員会



